

謹賀新年

吉澤範夫市長×ピープル編集部

市長新春インタビュー

新年あけましておめでとございます。今月号では新春企画として、昨年4月に新市長に就任した吉澤範夫市長に、市政の状況や今年の抱負などお聞きしました。



ピープル編集部―新年おめでとございます。昨年4月に新市長に就任され、約8か月が経過しましたが、まずはその感想をお聞かせください。

吉澤市長―明けましておめでとございます。昨年4月に市民のみなさんからの信託を受けて以来、まさに無我夢中で職務に取り組んできたというのが今の気持ちです。市民病院の存続やスピカビルの活用方法など市政は問題が山積みでしたし、アメリカ発の金融・経済危機、衆議院選挙による政権交代、新型インフルエンザの流行など、トップとしての判断を迫られる緊張の連続でした。改めて市長の重責を痛感しています。

―市民病院の存続に市民の関心が高まっていますか。

市長―7月に市民病院の運営



に関する対話集会を市内4地区で開催しました。300人を超えるみなさんにご参加いただき、貴重なご意見をいただきました。経営形態はいずれにしても、多くの人が病院の存続を望んでいることがわかりました。

現在、国は地域医療再生のための交付金を確保し、都道府県単位での計画づくりを進めています。私は、この動きを市民病院再生の好機と期待し、県に対して強く要望して

きました。計画では市民病院

の役割を筑西・桜川・下妻などの広域的な医療圏の中で明確にしていきます。公立病院である市民病院が、がん診療や脳卒中・急性心筋梗塞の診療を担うというものです。この計画が現在、国の有識者会議で審議されています。採択されれば、医科大学との連携や医師の確保が期待できます。

―下館駅前のスピカビルの活用も大きな課題ですね。

市長―現在、市役所の分庁舎

として利用しているスピカビル

はもともと商業ビルです。民間の事業者を活用してもらうのが一番です。民間のノウハウを最大限に生かして、にぎわいのある駅前ビルに再生していただきたいですね。

そのために現在、民間への移譲に向けて課題を整理しているところです。さまざまな問題がありますが、一つひとつクリアし、タイムスケジュールに沿って民間移譲を実現していきます。

―「協働」がまちづくりのテーマになっていますか。

市長―市では、まちづくりの指針となる総合計画に基づいて「協働のまちづくり」を進めています。10月には市役所を挙げて「協働」を進めるための推進計画を策定しました。今後はこの計画に沿ってさま

ざまな事業を進めます。

私は、「協働」の取り組みはお互いの信頼関係が重要だと考えています。その基本は情報の共有です。職員には積極的に市民と情報を共有するように話しています。私もさまざまな機会を通じて、市民のみなさんとひざを交えた意見交換に努めています。

余談ですが、市のホームページに私の活動を記したブログ（日記）を掲載しています。多くの人にご覧いただいているようで「更新されるのが楽しみだよ」と声をかけられます。これからも頑張ってパソコンに向かいますので（笑）ぜひ、ご覧ください。

―今年「協働のまちづくり」がどのように展開されていくのでしょうか。

市長―「協働」は行政と市民、

団体、企業などとのさまざまなつながりが大切です。そこから、地域の新しい『元氣』が生まれてきます。今年はこの『元氣』をもっともっと生み出すために、さまざまな事業を展開していきます。

10月に、下館青年会議所と協働で市民討議会を開催しました。応募により集まった23人の方が「魅力あるまちづくり」をテーマに活発な討議を行ってくれました。そして、12月13日には、その報告会が行われ、「医療・福祉の充実」などの行政への要望のほか、「行政事業への市民参加の促進」、「隣人とのコミュニケーションの推進」といった市民

自らが積極的になまじくりに係わろうとする頼もしい報告がなされました。これらを施策に生かすよう関係部署に対して指示したところです。

また、来年度は「タウンミーティング（仮称）」を開催していきます。市民のみなさんの生の声を直接お聞きし、市政に生かしていきたいと考えています。ぜひご参加ください。

それから、市民活動団体やNPO、ボランティアなどの活動を支援する「市民活動センター（仮称）」をスタートさせます。センターでは、市民活動団体に会議や打合せのためのスペース、パンフレットやチラシを作成するための機

材を提供します。また、ほかの先進自治体の活動情報なども容易に入手できるようにします。ので、ご利用ください。—今年の吉澤市長の抱負をお聞かせください。

市長—就任以来のモットーである「夢のあるまち、暮らしやすいまち、市民の笑顔がふれるまち」を少しずつ形にしていきます。

私も2人の子どもを持つ親でもありますから、子育て支援、教育環境の充実がとても大切だと考えています。「子育てするなら筑西市」というイメージをつくっていききたいですね。緊急の子育て支援策としては民間の保育所が新たな

大好評！「市長の日記」



吉澤市長自らが綴る「市長の日記」が好評です。日頃の公務の様子や感想などが、写真満載で楽しく掲載されています。ご覧ください。

筑西市ホームページ→市長の部屋
→市長の日記

保育士を雇用した場合、その給与や手当を支給する「保育体制緊急整備事業」を実施します。また、教育施設ですが、現在、協和中学校の建設を進めています。その後、老朽化が見られる学校施設を順次改修していきます。

しかし、「子育てしやすい」という実感は、子育て支援の分野の行政サービスだけでは不十分です。身近な自然、便利で文化的な生活、子育て世代が孤立しない地域のつながり、防犯や医療の充実、確かな学力と生きる力を育む教

育、雇用の確保。そうした総合的な取り組みがあつてはじめて実感できるものではないでしょうか。そして結果的に、これらの取り組みが高齢者をはじめとした地域福祉の充実につながり、誰もが住みやすいまちを創ることにあります。

一朝一夕にはいきませんが、そんな将来像を描いています。その実現にはみなさんの協力が必要です。みんなで一緒に「子育てするなら筑西市」、「住み続けるなら筑西市」と言えるようなまちにしていきたいですね。



いつまでも住み続けたいまち
ふるさとをめぐりて